

## 別世界「東京」

私が今まで行ってきた東京、それは観光スポットがとても多く、遊べて楽しめる町だと思っていた。しかしそれは、「東京」のほんの一握りでしかない。今回私はそのことを初めて気付かされた。

仙台駅に6時半集合から始まったこの会。朝は苦手なのであまり元気が出なかった。新幹線では午後の企業訪問の最終確認であつという間に着いた。まだこの時は、東京は「遊ぶための場所」という認識があった。

東大見学会初日の午前中三菱商事に企業訪問に行かせてもらった。初日の東京は仙台よりも暑く、汗が潮のように吹き出てきた。しかし御社内に入ったときは冷房が効いていて涼しかった。また社内も社員や役員の方が多くいらっちゃった。とても忙しく働いていたが、あいさつなど基本的なことは欠かさず行っていて、さすがだなあと思った。ここから東京は「遊べる」という考えではなくなった。私たちは三階の会議室に通され、ディレクトフォースを行った。その部屋で三菱商事の紹介や実際に働いている方の講演、グループでの話し合いなどとても貴重なお話を聞かせてもらった。そこで最も印象に残っている言葉は、「時間を無駄にせず、迷ったらとりあえず挑戦してみよう。」である。高校生は特に時間が早く過ぎるのでその一分一秒を大事にし、やらないで怒られるよりもやって怒られるほうがずっといいので挑戦する勇気を大切にすることで将来役立つということを教わった。

午後、私たち医師を目指すグループは東京から千葉の稲毛に行き、放射線医学総合研究所というところに訪問させていただいた。敷地内に入るのに大きな守護室があり、この研究所の重大さが感じられた。また病棟はもちろんのこと、治療室(HIMAC)など大きな建物がたくさんあり驚きだった。私たちはそのなかでも治療室を中心に見学させていただいた。ここでは主になん治療を行っている。日本の約90%の放射線治療は、X線(光子線)や陽子線での治療だが、当施設では重粒子線(水素以上重さの粒子の気体を重粒子と言う)を使っての治療を勧めている。これは世界で注目され始めていて欧米や中国、アメリカなど先進国で行われているが、日本では15の粒子線治療施設のうち5施設でしか行われていない。重粒子線ではX線とは違い、炭素イオンを使い、がん細胞を殺す。そのがんの深さを計算して、そこでぴったり止まり止まる寸前で強くなるので、他の正常細胞をX線よりもダメージを与えずに済む。X線だと放射線が体のごく浅いところで最も強くなるので、がんが届く前やそれより後の正常細胞を傷つけてしまう。副作用の危険性はあるが、明らかに重粒子線での治療がいいと思う。また重粒子線がん治療の患者数は前立腺や骨、肺がんの方が多い。これは近くに放射線感受性が高く、特に大事な臓器がある場合だ。もしこれでX線を使うと、X線をあてる範囲は重粒子線で炭素イオンを使うときにあてる範囲より広いので、その細胞は二度と戻らないかもしれない。こういう時に重粒子線はとても役に立つのだ。

しかし課題もある。それは生存率を引き上げることだ。膵臓などにできたがんからの生存率はほかのところにあるがんに比べて圧倒的に低いということを今回教えていただいた。重粒子線でどこまで上げられるかが期待される。

夕方は千葉から東京を通り、横浜のホテルに向かった。当初の予定より少し遅れて着いたので夕食は急いで食べた。そのあとすぐに二高OB,OGによる懇親会があった。2008~2011年に卒業され、東大や一橋大など、超名門の大学に入られた先輩方と、高校の時の勉強法や時間の使い方、大学の選び方など様々なことを教えて下さった。私たちのグループには経済学や法学など文系に進んだ先輩から話を聞いた。私は理系を選択したので文系の事はあまり興味ないなと思っていたが、文系ならではの面白さなどといった、自分が気づかなかったことに気づけて、文系も悪くないなと考えた。私が苦手な国語の勉強法も、先輩方は大体同じ方法で学習していたのでその仕方を真似して、ニガテを克服したい。それ以外にも東大でのお土産やスポットなども教えていただいてとても楽しかった。

そして東大見学会で私が楽しみにしていたもの、それはホテルでの時間だ。食事ではステーキやスープ、パンやデザートなどどれもおいしいものばかり出ていて、皆で楽しい食事ができた。また夜は、友達とテレビやトランプなどをしてたくさん遊べた。また隣の部屋に押し入って遊んだりもして、とてもいい思い出になった。しかし私は荷物の整理があまりできないので、同じ班の人に迷惑をかけたりしてしまったので、そういう生活習慣は早く気を付けたい。



2日目は朝早くからの移動で大変だった。

横浜から東京に向かうのに電車を使ったが、ちょうど通勤ラッシュと重なりとても窮屈だった。しかし本場の通勤ラッシュを体験できてよかった。(?) 1時間くらいで東大に着き、人生3度目の東大の赤門の前に着いた。旅行で赤門には数回来たが、くぐったのは始めてで少し緊張した。しかしここをくぐれて、少し誇らしかった。東大はとても敷地が広く、はじからはじまで行くのにかなり時間がかかった。またこの日も暑かったので疲れた。午前中は昨夜の懇親会を踏まえて、法学部の模擬授業を受けた。授業を受ける部屋はとても大きく、驚きを隠せなかった。法学部でもこんなに人が集まるのかとこれもまた驚愕だった。授業はかなり難しかったがわかるころはあったので少しは理解できた。さすが東大生は違うなと感動した。昼ご飯を食べ、午後はキャンパスを見て回った。工学部から医学部までたくさんの建物を見たり、実際に体験したりした。売店にも行き、懇親会で教えてもらったお土産を買った。初の東大キャンパスへの参加はとても充実したものだだった。

帰りは昨夜の疲れとこの日1日中歩き回った疲れがどっと溜まり、とてもまぶたが重かった。その戦いをリードして、友達と話をしながら仙台駅へと戻った。しかし眠さの猛攻に逆転されてしまい寝てしまった。私は行き、帰り共に後発組だったので人数が多く、最初のほうはとてもにぎわっていた。が、しかし起きて車内を見渡すと大半が負けていた。



仙台駅に無事全員帰還でき、すぐ解散となった。駅には七夕ということで短冊が多くみられた。また屋台で牛タンがやっていた。いい景観といい匂いを目と鼻で感じながら私はバス停に行き帰路に立った。

今回の研修で私は、「自分と違うことを受け入れる。」ことと「先進医学の現状と今後の課題」の2つをおもに学んだ。日本の企業が海外にどんどん進出していて、そこに派遣される方が自国と違う習慣や文化をただ批判するのではなく、それらを受け入れて生活していかなければならないという気持ちを持って活動していくという考えに私はとても納得した。また、臨床医学から先進医療に変わりつつある放射線を使つての治療は、重粒子線はX線よりもがんに効くという利点もあれば、その一方で生存率が低いという欠点もあり、それをこれからどのように改善していくかが今後の課題である。グローバル化が進む中、世界で協力しながらこの2つについてますます発展していくことを期待して将来の夢である医師になるべく努力し日々精進していきたい。遊び以外にも今まで入ったことのなかった企業への訪問で、違う一面の東京を味わえたのでよかった。